

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0472200476		
法人名	特定非営利活動法人 もみの木会		
事業所名	グループホーム もみの木		
所在地 (電話番号)	柴田郡柴田町船岡東2-8-5		(電話) 0224-58-3240
評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 20 年 9 月 12日		

【情報提供票より】(平成20年8月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 8 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	有(円)	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		円 月額 36,000円

(4) 利用者の概要(8月15日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 83.1 歳	最低 61.1 歳	最高 90.6 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	船岡今野病院・歯科ヒライ・佐藤内科クリニック
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小学校、公民館、公園やスーパーが近く便利な町中にある。入居者が丹精したトマトなどが植えられた中庭から、さわやかな風がリビングに吹き渡り季節の匂いを運んでいる。通りに面した掲示板には、ホームの理念や目標・運営推進会議の記録・もみの木便り・介護一口メモが並び、地域の方々に認知症を理解していただくツールとして活用されている。その人を知ることから適切なケアが始まると、生活歴を重視した介護計画を作成し、入居者が主人公のケアを実践している。認知症ケアに理解ある理事長、区長や地域住民の方々の暖かな協力と見守り、楽しくいつまでもここで働きたいと話す管理者と職員、町との良好な関係、家族の厚い信頼等、周りの方々に支えられゆったりとありのままの自分で居られるホームで、更なる成長が楽しみである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>課題改善シートを作成し、課題優先順位・改善目標・計画内容・期間・評価欄を掲げ、前向きに取り組み①運営推進会議の定期的開催②家族等の意見の把握の工夫③希望に沿った外出への支援など3項目すべてが改善されている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で取り組み、日頃のケアを率直に評価した。ヒアリングを行った2名の職員からは、文章化することで客観的に自分の業務を振り返る良い機会になった。他の職員のケアへの取り組みも分かり統一したケアを目指していくためにも、「とても意義あるものになりました」との感想が聞かれた。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>3ヶ月に1回の開催であったが、改善され2ヶ月ごとの開催となった。会議のスムーズな進行のため取り上げる内容については、管理者が事前に参加予定者に資料を配布し連絡している。記録は玄関に置いてあり誰でも見ることができる。また掲示板に掲げ、開かれたホームとしての存在を示している。住民の方々との交流のきっかけ作りにも一役買っている。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営者・管理者・職員は家族ならではの係わりを大切に思っている。ホームでは相談苦情委員会を設置し、第三者委員を2名体制に、さらに面会時や家族会が開催された時には必ず声を掛け、いつでも気軽に不安や要望を言っていたらよい話しやすい環境や雰囲気作りに努めている。これまで苦情はなく、家族アンケートからは感謝の気持ちが多数寄せられている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地区長のお声掛けで設立時から自治会に加入している。地区長や地域の住民も運営推進会議委員として加わり、常日頃からホームのよき協力者・理解者として温かく見守り支えている。職員も常に挨拶を心掛け、地区の敬老会・夏祭り、小学校の運動会への参加、またホームの行事にもお招きするなど入居者の生活の場を広げる交流が着実に深まっている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立時に作られた理念である。当初から地域との関わりを大切にホーム関係者の「想い」が込められた理念となっている。地域密着型サービス事業所として指定されたホームの理念はどうあるべきか職員全員で見直しを行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が実践に活かされるよう、管理者や職員はミーティング時や申し送り時にも話し合い確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域の一員として理解をいただいている。隣家の方と垣根越しに話をしたり、散歩や買い物時、出勤の折にも欠かさず挨拶を交わし積極的に交流している。さらに、ホームに気軽に立ち寄りやすい雰囲気づくりにも努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で取り組んだ。書くことで日常の業務の振り返りとなりいろいろな気づきが見えた。改善計画シートを活用し、ケアの統一やサービスの質の向上を図っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの業務等の取り組み状況報告を行い、意見をいただくようにしている。理事長は、「形にこだわらず気楽になんでも話し合える関係ができれば良いと思います。」と話されていた。内容は議事録に残し公表している。通りの掲示板にも開示している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から相談をしたり助言をいただくなど連携が取れている。町の担当者は運営推進委員会のメンバーでもある。町からの依頼があれば認知症講座の講師等、いつでも応じられる体制ができている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者にとっては何より家族が一番と管理者・職員は思っており、毎月、手紙や電話で入居者の日常の様子や出納状況を報告し、家族は安心されている。職員の異動は、家族会や面会時に伝えているが、家族も気になるところでもあるので定期的な報告と一緒にお知らせするようにしていきたい。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見や要望は貴重な宝であると管理者は認識している。意見等がケアの質の向上に反映されるよう相談苦情委員会が設置されている。今回の家族会では9月21日の松島水族館への家族同行の外出についての話し合いが行われた。話し合いのあと、理事長(住職)宅でバーベキューを楽しんだ。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	認知症のケアには馴染みの関係作りは重要であると管理者は理解している。異動等が生じた場合には、引継ぎの期間を十分に設けたり個々の対応についての情報交換を行い、入居者が不安を持つことなく馴染みの関係が早く作れるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修が年3回開催され、2名ずつ参加している。NPO県グループホーム協議会や行政の研修にも積極的な参加支援をしている。ゆとりある職員体制が組まれていることも、状況に応じた柔軟なシフトへの対応など研修会に出やすい条件になっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会に加入し、相互訪問や研修・交流会を通して仕事へのモチベーションを高めている。町内4つのグループホームとも積極的な交流を行っている。柴田町のネットワーク会議(福祉施設全体)のグループホーム部会が2ヶ月に1回の割合で開催している研修にも受講の機会を設けている。10月には仙南ブロック新人研修が予定されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用に当たっては家族と一緒に見学していただいたり、職員が本人の自宅へ伺うなど徐々に馴染みの関係が築けるよう配慮している。自宅でゆっくりと話しを伺うことで、その方に合った介護のヒントやこれまでの生活の継続への手がかりが得られている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に暮らす人生の先輩として敬意をもって接している。料理や縫い物はじめ教えていただくこと、学ぶことがたくさんあり、入居者と共に過ごす時間を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の一番近くにいる職員だからこそ分かる、何気なく表れた表情・身振り・視線などから小さなサインを読み取ることの大切さを職員はよく理解している。東京センター方式の生活歴のアセスメントも、本人の意向を把握する大切な手段になっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者は介護計画が入居者や家族との契約書となる重要なものであると認識している。入居者がホームでどのような生活を送りたいのか、本人のありのままの声を大切に作成している。本人の主訴は勿論、詳細なアセスメント、家族からの要望、職員全員の気づきなど話し合い、統一したケアに取り組むようその人だけの個別の介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の思い、家族の要望を伺い月1回の全体会議で話し合い、実際に計画がケアに活かされているか評価し、見直しを行っている。現状にあった計画となっているか3ヶ月に1度定期的な見直しを行っているが、状態が変化した場合にはその都度検討見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院・理美容室・買い物などの付き添い、また墓参り・初詣など以前住んでいた地域やなじみの場所への外出など、本人や家族の希望に応じて柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やその家族が希望するかかりつけ医へ受診をしている。受診結果については、情報の共有が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針・意思確認書は明文化され家族の同意を得ている。現在、在宅療養支援診療所に仙南地区の協力医療機関を打診すべく行動を進めているところである。入居者が安心して納得した終末期を過ごせるよう医療機関との連携確立に向け対応されるようお願いしたい。	○	家族のアンケートにも、終末期まで検討して受け入れていただき、介護の手が多く必要なのに良くしていただいておりますとコメントも寄せられている。本人や家族が安心できるよう医療機関を確保し連携を図っていきけるよう引き続き体制整備にむけ取り組んでいっていただきたい。また職員の看取りへの不安に対する教育の支援もあわせてお願いしたい。
haka					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴やトイレ介助の際は特に、できない部分にそとさりげなく何気ないケアをするよう心掛けている。ホームには「理念」と共に「私達の目標」が掲げられ、冒頭に「プライバシーについての心得」が謳われており、職員への周知徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまでの生活歴や暮らしから、一人ひとりの生活のリズムを把握し、入居者それぞれが満足する生活パターン・スタイルを尊重したケアを目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	“食事は楽しく”を心がけ、それぞれのペース、スタイルで食べられるよう、職員と一緒に食事を摂り適切な言葉掛けや見守りに徹している。盛り付け、片付けなど入居者が無理なく楽しく手伝いができるよう、手続き記憶を上手に引き出す支援がみられた。お酒の好きな方には、夕食時や入浴後に楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけ本人の希望に沿い、ゆっくりと楽しんでいただけよう心掛けている。面倒がる方には入浴誘導時の声掛けのタイミングやシャワー浴など「入って気持ち良かった。」と思っただけよう一人ひとりに合わせた対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手ぬぐいをきりと被り、食後の一仕事とばかり庭の草取りをされる方、ソファで編み物をする方、縫い物、料理、習字、ピアノに合わせての歌など入居者それぞれが満足できる場面作りを支援している。朝食後の玄米ダンベル(町が推奨している)も無理なく楽しめる日課になっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	2～3軒先のスーパーへの買い物・気晴らしの公園への散歩・ドライブなど地域の人や自然に触れる外出など、ごく当たり前の外出が日常的に行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけず、見守りなど安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。勉強会を開き鍵をかけた場合の拘束感はどうかなど、拘束のないケアを理解し、実践している。入居者の「ただいま～」の声から日頃のケアがうかがえる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署や地域の方々の協力・参加をいただき年4回避難訓練を実施している。夜間を想定しての訓練も行われている。消防署の協力の下、救急救命の講習を受講し、急変時には職員全員が対応できるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を記録し、一人ひとりの食事の状態を把握している。食材は毎日入居者と一緒に出掛け購入している。開設当時から地域のご夫妻から取りたての新鮮な野菜を届けて頂いている。そのお気持ちが入居者には何よりの栄養になっている。衛生管理委員を中心に食材の管理や食中毒の予防に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居ながらにして季節のうつりが感じられる中庭とリビングは一体感のある明るく開放的なつくりになっている。コーナーのベンチでは入居者が一人静かにくつろいでいる。冬はこたつを囲み団欒の場になる和室には大きな仏壇があり、お盆には理事長と入居者が一緒にお経をあげる。空調や照明の細めな調節に気を配り、快適で安全な環境を提供している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗浄機能付きトイレ・洗面台が配置され、プライバシーが確保された自分の部屋になっている。入居者各人の衣替え用の衣類は、ホームの納戸にきちんと保管されているので、居室は清潔に整理されている。馴染んだ好みの家具などに囲まれ落ち着いた生活を送っている。お互いの部屋を訪れお茶飲みをすることもある。		